

令和5年度事業報告

自 令和5年10月1日 至 令和6年9月30日

I. 展覧会

1. 第52回「日本の書展」直轄展

新型コロナウイルス感染症の影響も受けず、人々の行動もコロナ禍以前に徐々に戻りつつある中で、第52回展は直轄4展を無事開催することができた。ギャラリートークは第47回展以来5年ぶりの実施となった。

52回直轄4展の出品者総数は、各書道団体において出品者数の増加に努めていただいた結果、3,812名となり、前回より143名増となった（出品者総数の推移 51回展 3,669名、50回展 3,648名、49回展 3,555名、48回展 3,665名、47回展 3,678名、46回展 3,584名）。

入場者総数は17,435名となり、平成25年以来の17,000名超となった。内訳は、関西展1,866名（51回展1,443名、50回展1,702名、49回展開催中止、48回展開催中止、47回展1,972名）、中部展2,845名（51回展2,501名、50回展2,767名、49回展1,669名、48回展開催中止、47回展2,853名）、東京展10,262名（51回展9,868名、50回展8,363名、49回展4,361名、48回展4,136名、47回展8,597名）、九州展2,462名（51回展2,264名、50回展1,822名、49回展開催中止、48回展1,425名、47回展1,500名）。

開催披露祝賀会の出席者数も、来賓・出品書家・関係者の全体で、関西展488名、中部展322名、東京展596名、九州展129名となっており、祝賀会出席者総数1,535名で、昨年に続き1,500名を超えた。コロナ禍も緩和したことから、第50回、51回の個別料理を提供する形式から変更し、今回は4展ともbuffet形式で執り行った。関西展、中部展、九州展は全員着席の着席buffet形式となったが、東京展だけは出席者数の関係で、一部着席一部立食として実施した。

例年行っている出品者への贈呈として、図録1冊（現代書壇巨匠・現代書壇代表・委嘱作品と全出品者名簿を掲載）および出品者本人の作品ブロマイド2枚ずつを送付した。出品者のブロマイド追加注文販売は、前回試験的に行ってはいたが、前回355枚の追加注文だったのに対し、今回は885枚の注文があり、ブロマイド収入としては前回より約25万円の収入増となった。しかし、図録追加注文数が若干減ってしまったため、出品者による図録・ブロマイドの総売り上げは17万4千円増となった。

(1) 関西展

会 期 令和6年5月1日（水）～5月3日（金・祝）
会 場 マイドームおおさか（1、2階展示ホール A～D）
主 催 （公財）全国書美術振興会 産経新聞社
後 援 文化庁 大阪府
協 賛 （公社）日本書芸院
開催披露祝賀会 令和6年5月1日（水）13:00～14:30
スイスホテル南海大阪 8階 「浪華」
出席者 488名（前回467名）
ギャラリートーク 令和6年5月2日（木）14:00～15:00
マイドームおおさか（1階展示ホール）
講師 福光幽石評議員

関西展は、巨匠18点、代表109点、委嘱41点、招待467点、秀拔選556点、合計1,191点、会期中の入場者数は1,866名となり、前回より約29%増となった。（参考：前回51回展 出品総数1,172点 入場者数1,443名）

5月1日（水）の13時から、スイスホテル南海大阪8階「浪華」において開催披露祝賀会を行い、来賓・出品書家・関係者合わせて488名の出席があった。例年利用していたリーガロイヤルホテルの宴会場が改装工事に入っているため、スイスホテルは初めての利用となった。

祝賀会では、高木聖雨代表理事・理事長ならびに田中壮一郎代表理事・会長の主催者挨拶に始まり、産経新聞社 事業本部 エグゼクティブプロデューサー伊藤富博氏の共催者挨拶、文化庁参事官 児玉大輔氏の来賓祝辞、文化功労者の黒田賢一常務理事による書家代表挨拶へと続き、主な来賓と現代書壇巨匠作家の紹介の後、日本芸術院会員の土橋靖子理事の乾杯発声で祝宴に入った。14時30分に真神巍堂常務理事の閉会の挨拶で終了した。

(2)中部展

会 期 令和6年5月28日（火）～6月2日（日）
会 場 愛知県美術館ギャラリー（愛知芸術文化センター8階 A～J）
主 催 （公財）全国書美術振興会 中日新聞社
後 援 文化庁 愛知県 東海テレビ放送
協 賛 （公社）中部日本書道会
開催披露祝賀会 令和6年5月28日（火）18:00～19:40
名古屋東急ホテル 3階 「ヴェルサイユ」
出席者 322名（前回345名）
ギャラリートーク 令和6年6月1日（土）14:00～15:00
愛知県美術館ギャラリー（愛知芸術文化センター8階）
講師 吉澤劉石現代書壇代表

中部展の出品数は、巨匠18点、代表109点、委嘱14点、招待195点、秀拔選422点、合計758点、会期中の入場者数は2,845名となり、前回より約14%増となった。（参考：前回51回展 出品総数741点 入場者数2,501名）

中日新聞社の紙面協力、東海テレビ放送の放映協力、中部日本書道会の協賛を得ている。

5月28日（火）の18時から、名古屋東急ホテル3階「ヴェルサイユ」において開催披露祝賀会を行い、来賓・出品書家・関係者合わせて322名の出席があった。祝賀会当日は、西日本・東海・北陸で大雨警報が出ており、各地で線状降水帯が形成されて雨風共に非常に強く、交通網麻痺の影響で70名程の欠席者が出たが、それでも300名を超える盛大な祝賀会となった。

祝賀会では、田中壮一郎代表理事・会長の主催者挨拶に始まり、中日新聞社 事業局 局次長古田真一氏の共催者挨拶、中部日本書道会 名誉会長の神田真秋氏の来賓祝辞、鬼頭翔雲評議員の書家代表挨拶へと続き、来賓、全国書美術振興会役員、巨匠・代表・委嘱作家の紹介の後、東海テレビ放送株式会社 取締役事業局長 吉田明弘氏の乾杯発声で祝宴に入った。19時40分に伊藤仙游評議員の閉会の挨拶で終了した。

(3)東京展

会 期 令和6年6月13日（木）～6月23日（日） 6月18日（火）は休館日
会 場 国立新美術館（展示室1A・1B・1C・1D）
主 催 （公財）全国書美術振興会 共同通信社
後 援 文化庁
開催披露祝賀会 令和6年6月13日（木）12:00～13:30
オークラ東京 オークラプレステージタワー 1階 「平安の間」
出席者 596名（前回640名）
ギャラリートーク ①令和6年6月15日（土）14:00～15:00
国立新美術館 展示室
講師 角元正燦理事
②令和6年6月22日（土）14:00～15:00
国立新美術館 展示室
講師 下谷洋子現代書壇巨匠

東京展の出品数は、巨匠18点、代表109点、委嘱49点、招待668点、秀拔選905点、東京展合計1,749点、他展の委嘱（関西展委嘱41点・中部展委嘱14点・九州展委嘱8点）も加わり総展示数1,812点、会期中の入場者数は10,262名で、13年ぶりに1万人を超えた。

（参考：前回51回展 出品総数1,720点、入場者数9,868名）

6月13日（木）の12時から、オークラ東京1階「平安の間」において開催披露祝賀会を行い、来賓・出品書家・関係者合わせて596名の出席があった。直轄他展の祝賀会が、全員着席の着席ブッフエ形式なのに対し、東京展だけは出席者数と会場スペースの関係で、一部立食を取らざるを得なかったため、主たる来賓・書家代表者・共催代表者が最初からステージ上に着席、また来賓・書家（巨匠・代表作家）出席者リストを作成して配布し、紹介時間を省略するなど、式典時間を縮小する方法を講じた。紹介をした登壇者は次の通り、特に「書道」のユネスコ無形文化遺産への提案が決定したこともあり、文部科学大臣や書道国会議員連盟の方々の来賓6名の出席をいただいた。

主催者 全国書美術振興会 : 高木聖雨代表理事・理事長、田中壮一郎代表理事・会長、
共催者 株式会社共同通信社 : 三土正司代表取締役社長
来賓 盛山正仁文部科学大臣、河村建夫書道国会議員連盟名誉会長、塩谷立衆議院議員、
加藤勝信衆議院議員、末松信介参議院議員、関芳弘衆議院議員
書家 井茂圭洞名誉顧問（文化勲章受章者）、黒田賢一常務理事（文化功労者）

高木理事長の主催者挨拶に始まり、共同通信社 三土代表取締役社長の共催者挨拶へと続き、
黒田常務理事が書家代表挨拶を行い、登壇者紹介の後、河村書道国会議員連盟名誉会長の発
声で乾杯を行い、祝宴に入った。

13時30分に日本芸術院会員の星弘道常務理事の閉会挨拶で終了した。

(4)九州展

会 期 令和6年7月2日（火）～7月7日（日）
会 場 第1会場 福岡市美術館（2階ギャラリー B～F）
第2会場 福岡県立美術館（3階展示室 1～4号室）
主 催 （公財）全国書美術振興会 西日本新聞社
後 援 文化庁 福岡県
開催披露祝賀会 令和6年7月2日（火）12:30～14:00
ホテルオークラ福岡 4階 「平安の間」
出席者 129名（前回134名）
ギャラリートーク 令和6年7月3日（水）14:00～15:00
福岡市美術館（2階ギャラリー）
講師 岩田海道評議員

九州展は、巨匠18点、代表109点、委嘱8点、招待142点、秀拔選217点、合計
494点、会期中の入場者数は2,462名となり、前回より約9%増となった。

（参考：前回51回展 出品総数477点、入場者数2,264名）

7月2日（火）の12時30分から、ホテルオークラ福岡4階「平安の間」において開催披
露祝賀会を行い、来賓・出品書家・関係者合わせて129名の出席があった。

祝賀会では、高木聖雨代表理事・理事長ならびに田中壮一郎代表理事・会長の主催者挨拶
に始まり、西日本新聞社執行役員企画事業室長 安武弘子氏の共催者挨拶、九州国立博物館館
長 富田淳氏および太宰府天満宮宮司 西高辻信宏氏の来賓祝辞、来賓・全国書美術振興会役
員・代表および委嘱作家の紹介の後、公益財団法人福岡市文化芸術振興財団理事長 石原進氏
の乾杯発声で祝宴に入った。14時に松清秀仙評議員の閉会の挨拶で終了した。

2. 第51回および第52回「日本の書展」巡回展

会 期 第51回巡回展 令和5年8月～令和6年4月
第52回巡回展 令和6年9月～令和7年4月
会 場 51回展は地方8カ所を開催。52回展も地方8カ所の開催を計画。
主 催 （公財）全国書美術振興会 共同通信社 各地元新聞社
後 援 文化庁

現代書壇巨匠と現代書壇代表巡回作品（第51回展126点、第52回展127点）につい
ては、直轄展終了後、本会・共同通信社・各地元新聞社の共催、文化庁後援により、約1年
間をかけて、地方を巡回する。

第51回「日本の書展」巡回展 実施会場一覧

	開催地	地元主催新聞社	会 場	会 期	地元作品数	入場者数
1	鳥取 米子市	山陰中央新報社	米子市美術館	5.9.1～9.4	200	667
2	青森 青森市	東奥日報社	New's TO-O ビル3階催事場	5.9.8～9.11	274	651
3	富山 富山市	北日本新聞社	富山県民会館	5.9.15～9.18	125	647
4	岡山 岡山市	山陽新聞社	天満屋岡山店 6階 葦川会館	5.10.11～10.16	415	2,942
5	広島 広島市	中国新聞企画サービス	広島県立美術館県民ギャラリー	5.10.24～10.29	498	4,533
6	奈良 奈良市	奈良新聞社	奈良県コンベンションセンター	6.2.20～2.24	144	2,026
7	長野 長野市	信濃毎日新聞社	長野県立美術館	6.3.7～3.10	232	1,451
8	茨城 水戸市	茨城新聞社	茨城県立県民文化センター	6.4.13～4.18	291	1,800

※白部分が、今年度（令和5年度）事業

第52回「日本の書展」巡回展 実施会場一覧

	開催地	地元主催新聞社	会 場	会 期	地元作品数	入場者数
1	島根 松江市	山陰中央新報社	島根県立美術館	6.8.22～8.26	200	615
2	富山 富山市	北日本新聞社	富山県民会館	6.9.14～9.16	139	863
3	青森 青森市	東奥日報社	New's TO-O ビル3階催事場	6.9.20～9.23	263	534
4	広島 広島市	中国新聞企画サービス	広島県立美術館県民ギャラリー	6.10.1～10.6	481	4,070
5	岡山 岡山市	山陽新聞社	天満屋岡山店 6階 葦川会館	6.10.16～10.21	399	3,440
6	長野 長野市	信濃毎日新聞社	長野県立美術館	7.3.6～3.9	—	—
7	奈良 奈良市	奈良新聞社	奈良県文化会館	7.3.26～3.30	—	—
8	茨城 水戸市	茨城新聞社	茨城県立県民文化センター	7.4.12～4.17	—	—

※白部分が、今年度（令和5年度）事業

3. 第52回「日本の書展」東京展 公募臨書

会 期 令和6年6月13日（木）～6月23日（日） 6月18日（火）は休館日

前期展示 令和6年6月13日（木）～6月17日（月）の5日間

後期展示 令和6年6月19日（水）～6月23日（日）の5日間

会 場 国立新美術館（展示室1Dの一部 52、53室の2室）

主 催 （公財）全国書美術振興会 共同通信社

後 援 文化庁

2012（平成24）年の第40回から東京展に新設・併催された公募臨書も今回13回目となる。出品点数は1,163点、前回の1,135点より28点増え、前回に続き、千点超えの応募となった。

令和5年12月7日に、国立新美術館審査室で審査委員7名による入選・落選の審査鑑別を行った。展示室2室分の壁長を念頭に置いて審査を行い、最終的に入選数は480点、入選率41.3%となった。内訳は下表参照。

出品整理料は前回同様2,000円。入選作品は表具をして国立新美術館の52～53の2室に展示、壁面展示は2段掛けとした。展示後、入選者には表装作品と共に入選證を送った。

第52回「日本の書展」東京展公募臨書 入選数一覧 <展示方法・展示期間別内訳>

	壁面展示	机上展示		計
	たて	よこ	篆刻	
前期展示	170	57	14	241
後期展示	168	57	14	239
入選数合計	338	114	28	480

第52回「日本の書展」東京展公募臨書 入選数一覧 <作品ジャンル別内訳>

	漢 字		か な		篆 刻
	たて	よこ	たて	よこ	
	3 2 8	2 1	1 0	9 3	
	3 4 9		1 0 3		2 8
入選数合計	4 8 0				

Ⅱ.「子どもゆめ基金」助成子ども体験プログラム(ワークショップ)

筆もじにトライ! 2024

サブタイトル オリジナル筆もじ飾りを作ろう

日 時 令和6年8月16日(金)

Aコース 11:00~12:30

Bコース 14:30~16:00

令和6年8月17日(土)

Cコース 11:00~12:30

Dコース 14:30~16:00

令和6年8月18日(日)

Eコース 10:00~11:30

Fコース 13:30~15:00

場 所 国立オリンピック記念青少年総合センター
スポーツ棟 地下1階「第3体育室」

参加費・材料費 無料

助 成 独立行政法人国立青少年教育振興機構・子どもゆめ基金助成活動より95万円の助成予定

対 象 3歳~小学校4年生までの子ども(保護者同伴)
参加する子どもの保護者

定 員 360名(各コース60名×6コース)

指導者 金子夢生氏、小西北翔氏、今和希子氏、鈴木青麗氏、芹澤翔華氏、田中紫水氏、
畠田心珠氏、藤井一敦氏、堀 一惜氏、本田英之氏、松浦龍坡氏、宮島翠雨氏、
室井大輔氏

令和6年5月から振興会ホームページへの公開、6月から「日本の書展」東京展会場内でのチラシ配布、子ども体験ウェブサイトへのアップ、体験場所近郊や沿線上への幼稚園・保育園・小学校・児童館等子ども施設へのチラシ配布を行い、体験プログラムの募集を呼び掛け、7月1日からホームページで参加者の募集を開始した。前回、子どもと保護者が同じ体験を共有することが好評であったために、今回は子どもと合わせて保護者の募集も行った。

今回は「書道」に欠かせない表具にも焦点を当て、書いた作品をより際立たせるための切り絵を貼り付けて、筆もじ飾りを完成させるプログラムとした。体験時間もこれまでの70分間から90分間に変更した。

体験者総数 260名

体験者内訳 3歳 14名 4歳 21名 5歳 24名 6歳 15名

小学校1年生(6・7歳) 30名 小学校2年生(7・8歳) 23名

小学校3年生(8・9歳) 20名 小学校4年生(9・10歳) 22名

保護者 91名

体験初日は、台風が関東へ接近する予報が出ていたためキャンセルが相次ぎ、参加者数が半減した。体験2日目と3日目は、台風一過の影響により猛暑日となったため、若干のキャンセルが出た。キャンセルにより空いた席を利用して、急遽申込のなかった保護者にも体験に参加してもらった。

今回、初めて切り絵を貼り付ける体験を加え、体験時間を90分に拡大したが、子どもたちは集中が途切れることなく、最後までゆったりとイベントを楽しんでいた。保護者も学校教育での書写・書道の授業を思い出しながら、熱心に取り組んでいた。子どもと保護者が、同じ体験を通して会話をしたり、競争したり、知恵を出し合ったり、協力し合いながら物作りを完成させる過程は、大変充実した時間となった。

Ⅲ.日本書道文化協会

活動報告は別紙にて

IV. 日本書道ユネスコ登録推進協議会

活動報告は別紙にて

V. 書写・書道教育推進協議会

活動報告は別紙にて

VI. 機関誌および書美術に関する出版物刊行ほか

1. 展覧会作品集等の制作

(1) 第52回「日本の書展」直轄展

- ①図録 4, 440部（前回51回展は4, 380部）
現代書壇巨匠・現代書壇代表・全展委嘱作品図版をオールカラー刷りで掲載。
巻末には、全展招待・秀抜選作家を含む全出品者名簿を掲載。
出品者には1冊ずつ贈呈。
- ②出品者本人の作品ブロマイド（印刷） 7, 948枚（前回51回展は7, 626部）
展覧会名・姓号入り 2Lサイズ カラー
各出品者には、出品者本人のブロマイドを2枚ずつ贈呈。
（出品者3, 794名×2枚ずつ、現代書壇巨匠18名のみ×20枚ずつ）
- ③出品者名簿 直轄4展合計 49, 900枚
関西展 13, 050枚
中部展 9, 550枚
東京展 21, 450枚
九州展 5, 850枚
- ④案内はがき 114, 000枚
- ⑤ポスター 600枚
- ⑥外国人向け展覧会概要リーフレット 150枚

(2) 第52回「日本の書展」巡回展

図録（直轄4展と同図録） 650部（前回51回展は700部）

(3) 第52回「日本の書展」公募臨書

- ①入選者名簿 2, 000枚
- ②入選證 570枚

(4) 第53回「日本の書展」公募臨書

出品要項 11, 500枚

2. 「子どもゆめ基金」助成子ども体験プログラム「筆もじにトライ！2024」の制作

募集チラシ（A4） 15, 500枚
募集ポスター（A3） 300枚

3. 機関誌「書美術」第41号 4, 400部 令和6年2月1日に発行

4. ホームページの更新

VII. 書美術功労者の顕彰

文化勲章を受章した井茂圭洞名誉顧問、文化功労者に顕彰された黒田賢一常務理事、日本芸術院会員に推挙・任命された土橋靖子理事、日本芸術院賞を受賞された高木厚人理事の功労を顕彰し、記念品を贈呈した。

以 上